

令和6年度 商工観光労働企業委員会 県外所管事務調査の概要

◆調査日程

令和6年7月9日（火）～11日（木）

◆調査先・調査内容

①みちのく潮風トレイル名取トレイルセンター（宮城県名取市）

調査内容：みちのく潮風トレイルに関する情報発信等について

トレイルとは、森林や原野、里山などにある歩くための道を、歩く速さで旅することである。みちのく潮風トレイルは、東日本大震災からの復興に資するための取組であるグリーン復興プロジェクトの一つとして、環境省の事業により設定されたものであり、青森県八戸市から福島県相馬市までの太平洋沿岸をつなぐ、全線1千キロメートルを超えるロングトレイルである。

みちのく潮風トレイル名取トレイルセンターは平成31年4月に開設し、みちのく潮風トレイルを歩く上で必要な情報や、歩く文化などを発信するほか、トレイルを歩くハイカーや地域住民、観光等の来館者がくつろぎ、交流できる空間を提供するとともに、トレイル沿線の情報を展示した巨大パネルや国内外のロングトレイルに関する書籍を自由に見ることができる。また、80名を収容可能な講義室、キッチンを備えた実習室、会議室、シャワールームや洗濯機などの貸出しも行うほか、園庭にはキャンプ場や芝生広場等があり、多くの来訪者が楽しめる施設となっている。なお、みちのく潮風トレイルにはサテライト施設として五つのビジター・インフォメーションセンターが設置されており、各センターからもトレイルを歩く方への情報発信が行われている。

当該センターは、認定NPO法人みちのくトレイルクラブにより運営されており、みちのく潮風トレイルの開通に先立ち行われた運営計画の策定に、当該法人の代表及び事務局長が携わったことを契機として現在、当該センターの運営を行っている。

今回の調査では、センターの各種情報発信や観光振興に係る自治体等との連携・取組状況、法人及びセンターの運営状況などについて話を伺うとともに、センター内の見学を行った。

<主な質疑等>

- ・みちのく潮風トレイル名取トレイルセンターの来客者数について
- ・ロングトレイルによる関係人口の増加について
- ・みちのく潮風トレイルの運営に係るハイカーへの危機管理体制について
- ・ツアーガイドの充足状況及び養成について



②NanoTerasu（宮城県仙台市）

調査内容：施設の概要、活用状況、産学官との連携等について

NanoTerasu（ナノテラス）は、極めて明るいX線を試料に照射する方法で対象物の観察を行い、その試料の構造や機能など様々な情報を取得する放射光施設である。放射光施設は現在、エネルギーや食品、医療など様々な分野で利用され、既にその成果はエコタイヤやスマートフォンの画面、電気自動車や燃料電池車など様々な製品に活用されており、産業や学術の分野を牽引する非常に有用な研究施設となっている。

ナノテラスについては、2019年度から5年間の計画で建設が進められたものであるが、設計、建設の段階から国の機関である国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構（QST）と、一般財団法人光科学イノベーションセンター（PhoSIC）を代表とした宮城県、仙台市、東北大学、東北経済連合会の5者の地域パートナーが連携・分担する形でプロジェクトが進められ建設された施設で、その運営にあたってはナノテラスセンター、PhoSIC及びナノテラス事業推進室（JASRI）の三つの機関の連携により行われている。

施設の利用にあたっては、共用利用もしくはコアリション利用のいずれかの制度による利用が可能であり、共用利用では年に数回の課題募集が行われ、利用希望者が課題申請を行い、課題審査委員会の審査を経て利用が可能となるもので、原則として全ての者が申請可能である。利用によって得られた成果は原則公開で、消耗品の実費負担以外の利用料金は生じないものの、利用料金を支払うことで成果を専有することも可能となっている。なお、コアリション利用は一口5千万円の加入金を拠出したコアリションメンバーだけが利用できるもので、課題審査無しで10年間、1年当たり200時間を上限に利用可能であり、全て成果専有利用が可能である。なお、コアリション利用に関しては、宮城県や仙台市などが企業等の利用に係る各種支援メニューを設けており、中小企業等への活用を促進している。

また、当該施設は東北大学のキャンパス内に設置されていることもあり、共用制度を通じた先端科学の創造・若手研究者の育成や、コアリション制度を通じたイノベーション創出、大学の強みをいかしたリサーチコンプレックスの形成、一元的な事務局体制を通じたエコシステムの形成及び研究DXなど、QST、PhoSIC、JASRI、東北大学などのそれぞれの強みをいかした事業を実施している。

今回の調査では、施設の概要や組織体制、利用制度、試験方法のほか、東北大学の施設を活用した取組や施設利用者への各種支援制度などについて話を伺った。

<主な質疑等>

- ・ X線による試料の試験及び造影方法について
- ・ ナノテラスの建設及び運営経費について
- ・ 食品分野における施設の活用について
- ・ 東北圏外での企業の利用状況について



③ YUI NOS（宮城県仙台市）

調査内容：宮城県及び仙台市におけるスタートアップ支援の取組等について

YUI NOS（ユイノス）は、NTT都市開発株式会社、仙台市、ATOMi c a（アトミカ）等の連携によって誕生したスタートアップ支援やコワーキングスペースを提供する東北最大級の共創・イノベーション創出拠点であり、「未来の仙台をつくる共創・賑わいの拠点に」をコンセプトとして建設された、アーバンネット仙台中央ビルの1階から4階のフロアをユイノスとして、様々な取組等が行われている。

スタートアップ支援に関して、仙台市はNTTグループとの連携によりスタートアップの事業の立ち上げや事業成長に向けた様々な支援のワンストップによる提供のほか、市内の多様な支援者と東北にゆかりのある支援者等との連携強化を図るための、スタートアップのワンストップ支援拠点である仙台スタートアップスタジオを開設している。当該スタジオはユイノスに設置されており、起業やスタートアップに関する相談対応、個別の集中支援等が行われている。また、宮城県では仙台市及びNTTグループと産学官協働によるスタートアップ創出・発展へ向けた取り組みに関する連携協定を結んでおり、宮城県においても関係機関と連携した相談窓口の設置やワークショップの開催会場としての利用など、ユイノスの積極的な活用を行うこととしている。なお、ユイノスにはナノテラスと連携した研究拠点機能の整備として、ナノテラスを利用する企業向けの分析室も設置しており、先端研究を進める分析企業の支援も行われている。

今回の調査では、ユイノスにおいて仙台市及び宮城県のスタートアップ支援の取組について話を伺うとともに、ユイノスの見学を行った。

<主な質疑等>

- ・仙台市のスタートアップ支援に係る予算規模及び財源について
- ・仙台市スタートアップ戦略における人口減少等社会課題とスタートアップの結び付きについて
- ・宮城県におけるテック系スタートアップに特化した支援を行う背景について
- ・宮城県及び仙台市におけるスタートアップ支援の成果について

